

対して投書することができた。

③ 続く「読後討論会」でも投書に基づき具体的な事実（徴兵代役料の現代価値換算額など）を根拠に主張を展開する者も現れた。また発表できなくとも、ほとんどの生徒が応援したり相談したりと考えを表現することができた。

④ 決着をつけたいという強い希望がだされ、次單元も引き続き課題を追求することとなった。

⑤ しかし「社説」では立場を明確にしたために、70%の者が最終意見に他の考えを取り入れなかった。

3 第2回検証授業（ディベート的討論、社説）

(1) 単元指導計画

段階	時数	学習活動・内容	学習課題	社会認識
課題設定	1	1 新聞づくりで考えをまとめ「ディベート的討論」によって前單元からの課題に決着をつけることを確認する。	「最終トークバトルで決着つけよう」	事実認識1
	2	2 「自由民権運動」を中心に2つの立場から政策を判断する学習の進め方をつかむ。	「今のところどっちの味方？」	
	3	3 自由民権運動と帝国憲法、初期議会についてそれぞれの立場から「取材メモ」に事実関係を明らかにする。	「真実を探れ、君は歴史新聞特報記者だ」	
課題追究	3	4、取材メモに基づき全員で事実確認をする。 ○対立の象徴として福島事件をとらえ、特集記事にまとめることを義務づける。	「まちがった報道は許されない、特報部会議で確かめよう」	関係認識1
	4	5、取材をもとに自分の立場で「機関誌」を発行する	「さあ、君はどっちをつくる？」	主体認識1
	6	6、機関誌を読みあつて、相手の問題点をみつけ、自分に対する反論を予想し、模擬討論によって討論会の準備をする。	「君の考えおもしろい。だって、僕の考え正しいよ。だって…」	事実認識2 関係認識2 主体認識2
	7	7、読後討論会で結論をだす。最終的に立場を離れて「社説」に最終判断をまとめる。 ○ディベートの手法を取り入れた討論会を実施する 【検証授業 2】	「決着つけよう、トークバトル」 「素直な気持ちで社説を書こう」	事実認識3 関係認識3 主体認識3
解決	8	8、社説を発表しあい、一連の学習で学んだことを話し合う。	「みんなはどうしてる考えているんだろう。」	主体認識4
まとめ	9	9、学習の足りないところを確認する。	「学習を振り返ろう」	

(2) 検証の観点

① 相手との論拠の相違点をふまえ、自分の意見を主張できるか。

② 相手の主張の正当性にも気づき社説に多角的な見方で意見が書けるか。

(3) 検証授業の実際と考察

① 「この時期政府は国家主導で政治を行うべきだ」という論題でディベート的討論を実施した。互いに模擬討論までに予想した以上の反論を得たが、獲得した知識を活用し、すかさず反論しあっていた。

② 総発信者数が24名にのぼったこと、拍手やとっさに反駁資料を探す者などほぼ全員が何らかの形で討論に参加した。

③ 「社説」にも73%の者が相手の主張も取り入れて考えをまとめることができた。

4 考察

(1) 取材メモは事実認識形成に有効であったか。

① 事前・事後テストより（例）

	御誓文	明治維新	富国強兵	徴兵令
事前	18	34	20	8
事後	86	90	90	88

ほとんどの項目で70~90%の正答率が見られた。また授業後の感想でも下に示すようにスムーズに獲得できたとする者が多かった。

1. 取材メモで事実を自分で調べた感想を書いてください。
いままでの勉強の仕方だと、かたがた内容が自分で調べることによって、むしろいい内容がとか、さすがとか、昔のよとか考えたこと言葉を覚えるだけじゃなく、内容をちゃんと、発見がきっかけとてこうなった。

(2) 「歴史新聞」「投書・模擬討論」「討論」「社説」という指導過程によって社会認識の深まりがみられたか。

以下に示すのはある抽出生徒の記録である。「建白書」での表面的な意見から、「歴史新聞」